

< 卓球競技 >

式典後、大平園体育館にて卓球競技が行われました。猛暑の中、計33名の選手が熱戦を繰り広げました。

選手の皆さん、関係者の方々、お疲れ様でした。午前は開会式、午後は体育館の気温30度超の中での卓球競技というハードスケジュールの中、皆さんの頑張りに励まされ、親である私達も頑張ることができたと思います。ありがとうございました。(記 原田広報委員長)

この度の地区大会、また今後の中部地区における卓球競技の繁栄のため、県内外の皆様より頂戴した賛助金(SO資金)より【卓球台1卓8万円×4台】を購入し、保管先は大平園体育館にお願いしています。
(記 平井りえSON・鳥取会長)



< 水泳競技 >

6月1日、米子東山水泳場(どらドラパーク米子水泳場)にて、2014年度の水泳競技会を行いました。これまで利用してきたプールが工事のため、4月以降は本水泳場で練習をしてきました。水深がやや深いのですが、臆することなく一生懸命練習してきました。

本番では自己記録更新が相次ぎ、良い成果を披露することができました。表彰式ではいつも通りひょうきんなポーズを取るアスリートもあり、楽しく愉快な充実した雰囲気での閉会しました。

水泳プログラムは、6月15日に『SON広島水泳競技会』に参加しました。鳥取とは比較にならない大きな大会でしたが、全員が力泳を見せてくれました。決勝でタイムを落とすアスリートが多かったのですが、これは「午前に予選をし、午後に決勝」という日程が初めてだったためでしょうか。この大会では、参加アスリートが4名揃ったためフリーリレーにも初挑戦しました。中継違反も無く全員が好タイムを出し、特にアンカーの松原君の『25m無呼吸ロケットスパート』には会場全体から大きな歓声が沸いていました。泳ぎ終えた松原君の表情も大変すがすがしく、競技内容によっては誰もがこの雰囲気を作れることに、鳥取のアスリートに気付き体感してほしいと思います。

P.S. 大きな大会になるほど撮影制限が厳しく、動画でこの場面を紹介できないのが残念です。
(記 松本眞二)



< ボウリング競技 >

7月6日、鳥取スターボウルにてボウリング競技が行われました。アスリート8名に対して山村応援団長ら多数のギャラリーに加え堀夫妻が京都から駆け付け、準備体操の時から賑やかに開会しました。競技は普段の練習とは異なるアメリカン方式の3ゲームです。ボウリングのマナーとして隣のレーンの様子も気にしながら、かつ自分の投球にも集中しなければなりません。田中SO委員長の総評にもありましたが、ほとんどの選手が練習以上のスコアを出し、競技中のマナーも良く、自分自身との戦いを制することができたのではないのでしょうか。全員が首にメダルを掛けられ大満足の表情でした。(記 原田広報委員長)



② 2014年 7月20日 皆生トライアスロンボランティア

今年で第34回となる全日本皆生トライアスロン大会のボランティアに今年も参加しました。米子市皆生は「トライアスロン発祥の地」として、毎年全国から多くの選手が参加します。SON・鳥取のメンバーは毎年RUN部門のASに就き、選手に飲み水や食べ物の提供・支援を行っています。

今年はいつもの中海テレビ放送ASではなく、初めて細田企画ASでボランティアをしました。昨年まで細田企画ASを主としていた団体が不参加となり、その応援のような恰好となりました。選手に疲労が目立つ夕方以降の時間帯に、キビキビと活動する中高校生のボランティアが帰宅すると聞きやや不安がありました。

当日は梅雨明け前で猛暑ではなかったこともあったのか、制限時間ギリギリでASを通過する選手がほとんどなく、人手が少なくなって緊迫した時間帯にもスムーズな活動ができ、最後まで無事に責任を果たせました。

この皆生トライアスロンボランティアは、西部地区でSOを立ち上げる際に多くのボランティアの方に援助していただいたことに対するお礼として始め、そして現在は引き続き援助していただいていることに対する感謝として絶えず継続しているものです。

しかしながら、発足当初はSO全体から30名ほどの参加があったのですが今年の参加者は9名と縮小化が進んでいます。

SOの活動は地域やそこに住む多くのボランティアの方に支えられています。「求めるだけでは得ることはできない。与えた分だけ得ることができる -。」この大自然の法則は全ての社会生活に適用されていると思います。SOの活動を継続し広げていくために「与えること」をアスリート・ファミリー・ボランティア等 全員が忘れてはなりません。(記 松本眞二)

③ 2014年 7月29日～ 浦 雅行君(卓球)韓国遠征

「初めて海外遠征、交流会で得たもの」

県の事業により、卓球の国際交流会が韓国で 7月29日から 8月 1日の3泊4日でありました。初めての海外であったため、とても緊張した4日間でしたが充実した毎日で楽しかったです。中でも2日目の韓国選手との試合と技術指導は大きな経験となりました。

午前は、まず2012年パラリンピック知的の部でシングル2位(銀メダル)に輝いた孫(ソン)さんと試合をしました。さすがに惨敗しましたが、ハイレベルな選手との対戦の中でこれまで気付かなかった課題に気付きました。戦術・身体の動き・ラケットの振り・球筋等、孫さんのプレーからより高みを目指すために必要なものを掴むことが出来ました。このような方と試合が出来るなんて夢にも思っておらず、とても感謝しています。

そして、韓国国内障がい者体育大会シングル1位で、聴覚障がいを持つ張(チャン)さんと鄭(チョン)さんとも試合をし、2試合とも敗退しましたが良い経験になりました。

午後からは、韓国代表の指導をしておられる曹(チョ)さんより技術指導を受け、直せなければならぬ癖等を細かく指導してもらい、少しずつでも自分のプレーを改善しようとする機会となりました。日本国内だけではなく、世界のプレーや指導を受けれたことは私にとって大きな財産であり、自分の目標への課題が明確になりました。

卓球だけではなく、様々な文化の違いにも触れることが出来ました。食事は3食ともキムチが出ました。朝食でもキムチ・昼食でもキムチ・夕食でもこれまたキムチと、まるで日本の味噌汁のように韓国では毎食キムチを食べます。

そして1つ1つの食べ物の量がとても多いです。「お相撲さんが食べるのか!!」と思うくらい、たくさん食卓に並べられるのです。

食器も鉄で出来ており、お椀から箸からみんな鉄製でした。そのため熱いものは熱がすぐ伝わるため、最初は使いにくかったのですが少しずつ慣れました。

買い物は通貨が日本円とウォンとの計算の違いで日本人からすれば物価が安く感じました。例えば、ユニフォームが1着65,000ウォンでしたが、これは日本円で約6,500円となります。安いと思いませんか？韓国国民からすれば65,000ウォンが安いのか高いのかは分かりませんが、物の定価も国によって違うのではないかと考えさせられました。

他には博物館に行ったり、2018年開催予定の冬季平昌(ピョンチャン)オリンピックで使用されるスキージャンプ台に昇ったり、室内を見学したりしました。

今回の海外遠征は、韓国のトップ選手との試合やプレーを見て自分のプレーを見直すことが出来ました。また、食や歴史、価値観の違いを実感したことで人としても成長することが出来ました。まだまだ未熟なところばかりですが、今回の経験を目標を果たすための糧とし、日々の練習をより頑張ろうと思いました。(記 浦雅行)



【発行】
〒680-0846
鳥取県鳥取市扇町21
県民ふれあい会館 3F
スペシャルオリンピックス日本・鳥取
事務局
TEL/FAX: (0857)30-6858
E-MAIL: jimukyoku@son-tottori.jp

スペシャルオリンピックス 日本・鳥取ニュースレター 夏号

2014. 8

① 2014年 5月25日～ 地区認証後、初の地区大会

はわい夢広場(湯梨浜町)にて、スペシャルオリンピックス日本・鳥取となってから初の地区大会・総合開会式、交流会を行いました。

< 総合開会式 >

会場には初参加の中部地区30名(うち、アスリート14名)を含む、約140名が集まりました。

総合開会式自体は2回目とあって、アスリート達はスムーズに集合や行進をしていました。午前10時から入場が始まり、SON旗は6人のアスリートに守られ会場を一周。続いて各プログラムに参加するアスリートが次々と堂々とした歩みで入場行進をし、コーチ・審判団の入場の後、炬火台に火が灯されました。

平井りえ会長の挨拶の後、来賓の宮脇正道湯梨浜町長より歓迎の言葉をいただきました。福留史朗鳥取県障がい者スポーツ協会会長からは「みんなが一緒になって障害者スポーツを県内で行えるよう目指していこう」という祝辞をいただきました。そして、なんと！平井伸治鳥取県知事がサプライズで登場され「全国にはスタバがあるが、鳥取県にはハワイがある」などと歓迎とお祝いとともに激励のお言葉をいただきました。

< 交流会 >

総合開会式の直後に、同会場にて交流会としてフライングディスク競技のゲームを全員で行いました。平井知事の試投式の後、アスリート・ファミリー・コーチなど10人で1チームを編成し、鳥取県障がい者フライングディスク協会の方々の審判もと「フライングディスク・アキュラシー5m(※5m離れた輪にディスクをどれだけ投入できたのかを競うゲーム)」を1人5投×2回のチーム合計を競いました。鳥取プログラムAチームが合計53ゴールをあげ、優勝しました。(記 松本真二)

総合開会式、交流会に開催に際して、次の方々より快いお祝いをいただきました。(順不同、敬称略)

- < 祝電 >
衆議院議員 赤沢亮正
- < 助成金 >
ごうぎん鳥取文化振興財団
- < 寄付 >
メモワールイナバ(横断幕)
太陽道業局(スポーツ飲料)

